

2018年3月期 第3四半期決算説明資料

2018年2月7日



スパークス・グループ株式会社

<http://www.sparx.jp/>



Mission

To make the world
“Wealthier, Healthier and Happier”.

Vision

世界で最も信頼・尊敬される
インベストメント・カンパニーになる



2018年3月期 第3四半期 (2017/4~2017/12)の業績

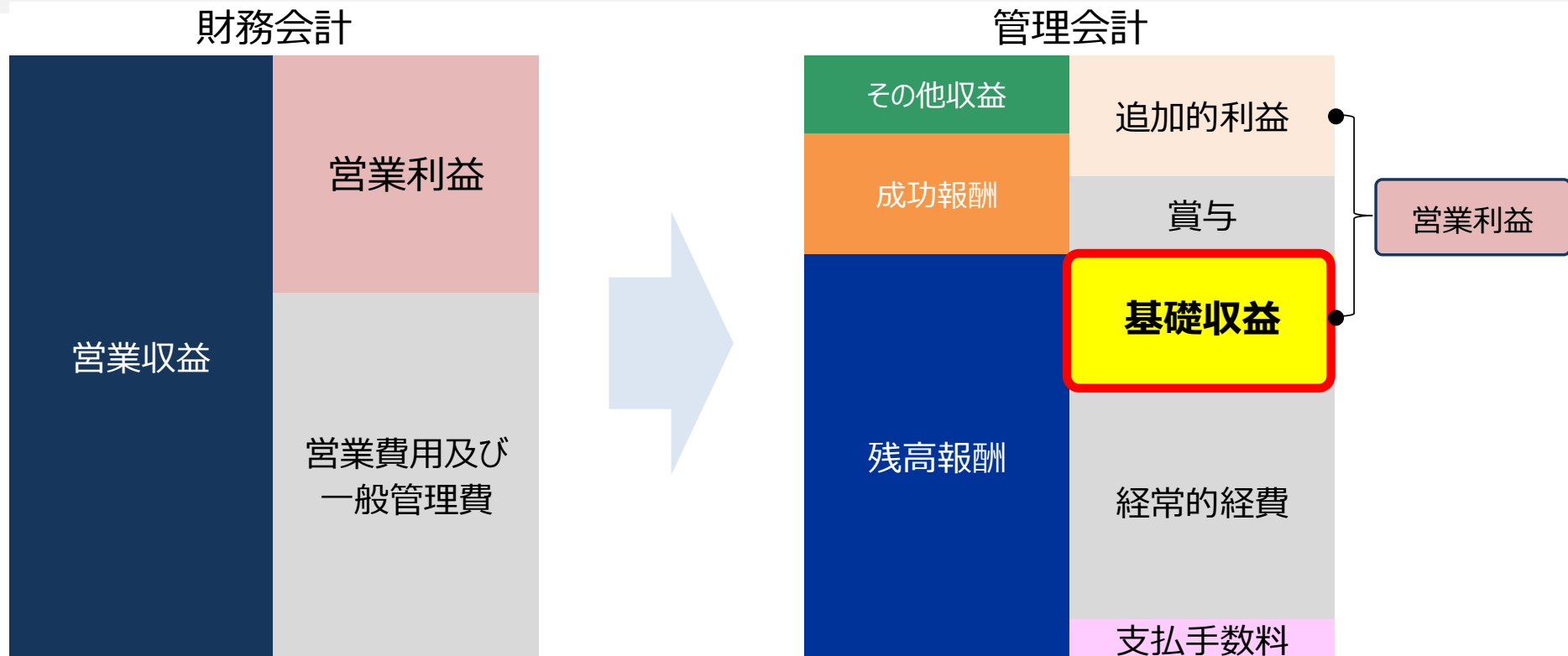
決算説明資料をご覧いただくにあたって

この決算説明資料は、連結財務諸表に記載されていない管理会計上の項目で説明されております。下図のとおり、営業収益は、①残高報酬、②成功報酬、③その他収益の3つに、営業費用及び一般管理費は、①経常的経費、②支払手数料、③賞与の3つにその項目の性質ごとに区分しておりますのでご注意ください。

また、当社グループは最も重要な経営指標として「**基礎収益**」を設定しております。「基礎収益」とは事業の持続的かつ安定的な基盤となる収益力を示す経営指標であり、その算定方法は以下のとおりです。

$$\begin{aligned} \text{基礎収益} &= (\text{残高報酬} \triangleq \text{支払手数料}) \triangleq \text{経常的経費} \\ &= \text{残高報酬(手数料控除後)} \triangleq \text{経常的経費} \end{aligned}$$

財務会計上の営業利益は、一時的・追加的に発生する成功報酬が含まれておりますが、成功報酬は株式市場の動向や実物資産投資の事業進捗状況などによって大きく変動しますので、**実質的な収益力を見るうえでは、「基礎収益」にご注目ください。**



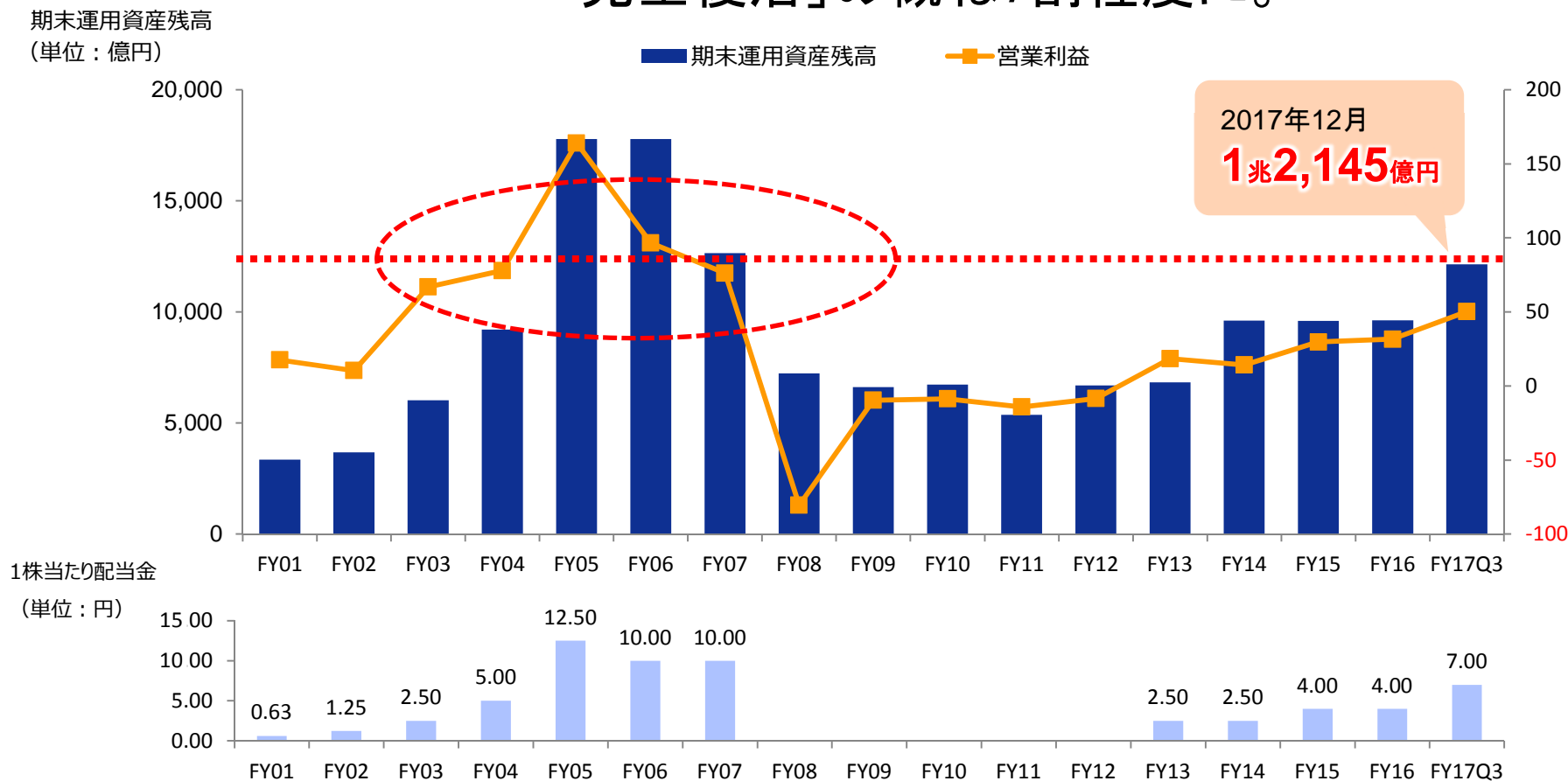


1. 「完全復活」7合目に到達！
2. ハイブリッドモデルが有効に機能！

「完全復活」※ 7合目に到達！



AUM、営業利益水準、1株あたり配当などの指標が、「完全復活」の概ね7割程度に。



「高収益性」と「安定性」のある投資戦略のハイブリッドで、AUM2兆円を目指す。

※「完全復活」

リーマンショック以前の利益水準、具体的には営業利益80～100億円レベルを、安定的に計上することが出来る状態を指しています。

従来からの高収益な上場株式の投資戦略と、 安定性のある実物資産/未来創生の投資戦略とのハイブリッドモデル

未来創生

(2015年)未来創生投資戦略

実物資産

(2014年)スパークス・アセット・トラスト&マネジメントをグループ傘下に

(2012年)スパークス・グリーンエネルギー&テクノロジー設立

OneAsia

(2006年)PMA Capital Management(現SPARX Asia Capital Management)をグループ傘下に

(2005年)Cosmo Investment Management(現SPARX Asset Management Korea)をグループ傘下に

(1997年)ファンド・オブ・ファンズ投資戦略(2002年より、アジア・パシフィック特化)

日本株式

(1999年)日本株式集中投資戦略

(1998年)日本株式厳選投資戦略

(1997年)日本株式ロング・ショート投資戦略

(1989年)日本株式中小型投資戦略

マーケットの上昇と下落に大きな影響を受ける

投資戦略の多様化で、安定度UP

収益のハイブリッドモデル



残高報酬に加え、一部ファンドから成功報酬を計上することができるモデル
成功報酬の計上が、営業利益の増加に直結する

		2017年3月期	2018年3月期	前年同期比
		第3四半期	第3四半期	
残高報酬	(百万円)	5,546	6,267	+13.0%
成功報酬	(百万円)	885	3,680	+315.7%
その他営業収益	(百万円)	71	139	+94.7%
営業収益 合計	(百万円)	6,504	10,088	+55.1%
営業利益	(百万円)	2,281	5,026	+120.3%

■ 主なファンドの収益構造

残高報酬 = 運用資産残高 × 残高報酬料率

成功報酬 = 運用資産残高 × 成功報酬付帯比率 × 成功報酬料率

(注) 収益構造の仕組みを簡便的に説明したものであり、実際の計算方法を厳密に説明したものではありません。

良好なパフォーマンスや日本株式市場の上昇に伴う成功報酬の計上などにより各段階利益は大幅に増加

(単位：百万円)	2017年3月期	2018年3月期	前年同期比
	第3四半期	第3四半期	
営業収益	6,504	10,088	+55.1%
営業利益	2,281	5,026	+120.3%
純利益	1,662	3,663	+120.4%
基礎収益	1,832	2,324	+26.8%

(注1) 残高報酬及び成功報酬については、P.8、P.10、P.34～37をご参照ください。

(注2) 基礎収益については、P.4、P.10、P.34、P.40をご参照ください。

連結決算 総括(2)業績



		2017年3月期		2018年3月期	
		第3四半期	(参考) 通期	第3四半期	前年同期比
運用資産残高 (平均残高)	(億円)	9,402	9,459	10,804	+14.9%
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.68%	0.69%	0.67%	-0.01
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	4,822	6,498	5,454	+13.1%
▲ 経常的経費	(百万円)	2,989	4,028	3,129	+4.7%
基礎収益	(百万円)	1,832	2,469	2,324	+26.8%
成功報酬	(百万円)	885	1,322	3,680	+315.7%
対AUM付帯比率	(%)	39.2%	36.4%	32.1%	▲7.1
その他収益	(百万円)	71	107	139	+94.7%
▲ 賞与 (ESOP費用を含む)	(百万円)	467	688	1,109	+137.3%
営業利益	(百万円)	2,281	3,169	5,026	+120.3%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,662	2,346	3,663	+120.4%
自己資本利益率 (ROE)	(%)	15.2%	15.7%	28.3%	+13.1

(注1) 残高報酬には、日本再生可能エネルギー投資戦略に関連する発電所等の管理報酬を含んでおります。以下本資料中同様。

(注2) 成功報酬には、日本不動産投資戦略に関連する不動産購入・売却の対価等として受ける一時的な報酬や、日本再生可能エネルギー投資戦略に関連する発電所スキームの組成の対価等として受ける一時的な報酬(アクイジションフィー)を含んでおります。以下本資料中同様。

連結決算 総括(3)運用資産残高



収益性の高い日本の運用資産残高が1兆円を回復。

(単位：億円)	期末運用資産残高			平均運用資産残高（9ヶ月平均）		
	2017年3月期 年度末	2018年3月期 第3四半期末	前期末比	2017年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	前年同期比
日本	8,139	10,780	+32.5%	7,428	9,351	+25.9%
韓国	1,343	1,261	▲6.1%	1,771	1,355	▲23.5%
アジア全域	143	102	▲28.4%	202	97	▲51.9%
合計	9,627	12,145	+26.2%	9,402	10,804	+14.9%

	2017年3月期 第3四半期末	(参考) 2017年 3月期末	2018年3月期 第3四半期末	前年同期末比
TOPIX	1,518	1,512	1,817	+19.7%
日経平均株価 (円)	19,114	18,909	22,764	+19.1%
KOSPI	2,026	2,160	2,467	+21.8%

※ 2017年12月末時点の運用資産残高の詳細は「月末運用資産残高のお知らせ」をご参照ください。
<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1543988>

ビジネスの進捗状況と今後の施策

成長実現のための4本柱：高収益性と安定性のハイブリッド



高収益性：ファンドのパフォーマンスにより大きな収益（成功報酬）を生み出すことができる

8,509億円

日本
株式

One
Asia

1,364億円

1,904億円

実物
資産

未来
創生

367億円

安定性：長期間の契約で解約がないため安定した収益を生み出すことができる



海外からの資金流入が増加したことに加え、
 良好なパフォーマンスと株式市場の上昇により運用資産残高は順調に増加。

(単位: 億円)	期末運用資産残高			
	2017年3月期	2017年12月期	増減額	増減率
日本株式ロング・ショート投資戦略	179	232	+52	29.4%
日本株式長期厳選投資戦略	2,946	4,175	+1,229	41.7%
日本株式中小型投資戦略	1,815	2,743	+928	51.1%
日本株式環境・クリーンテック投資戦略	1,030	1,182	+151	14.7%
日本株式価値創造・対話型投資戦略	56	118	+61	108.4%
その他	39	57	+18	46.0%
合計	6,068	8,509	+2,440	40.2%

Morningstar Award “Fund of the Year 2017” 最優秀ファンド賞受賞



オルタナティブ型部門 最優秀ファンド賞

スパークス・日本株・ロング・
ショート・ファンド
(愛称: ベスト・アルファ)

スパークスとして4年連続受賞!

(ご参考) <http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1549198>

Morningstar Award “Fund of the Year 2017”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びに Morningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2017年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。オルタナティブ型部門は、2017年12月末において当該部門に属するファンド126本の中から選考されました。



日本部門(1年) 初受賞!

AsiaHedge Awards 2017 日本部門(1年) スパークス ロング・ショート型ファンド



(ご参考) <http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1528538>

今年で16回目となるAsiaHedge Awards 2017は、同団体が、2016年9月から2017年8月までの期間のアジア太平洋地域を投資対象とするヘッジファンドを対象にシャープレシオや絶対リターンなどを基準に選考するものです。

※ 本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。



提案① 期末配当を増額

第92期(平成29年12月期)の期末配当を
1株あたり30円から90円へ増額



非効率な資本配分を改善

提案② 取締役の任期を短縮

取締役の任期を「選任後2年以内」
から「選任後1年以内」に短縮



信任の機会を増やすことで、経営上の課題に
株主の視点を加味して対処する体制を整える



**合理性を欠く内部留保を解消し
企業価値の増大を目指す。**

※ 詳細については下記、プレスリリースをご覧ください。

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1545553>

② OneAsia 投資戦略 (2017年12月末AUM 1,364億円)



新ファンドをローンチ

高い評価を受けている「スパークス・新・国際優良日本株ファンド(愛称: 厳選投資)」のアジア株版の公募投資信託の設定を2017年5月に実施。

今後、ネット証券会社を通じた個人投資家へのアプローチから、対面営業の販売会社にチャンネルをひろげ、運用資産残高の拡大を目指す。

2018年1月に韓国機関投資家から大口解約

韓国機関投資家(1社)から大口の解約を受け運用資産残高は減少。

しかし残高報酬料率が非常に低いため、連結業績に対する影響は限定的と判断。

オルタナティブ・ファンドに関する日本株投資のノウハウを活かし、アジア株でもより付加価値の高く収益性の高い運用資産残高の拡大に努める。

③実物資産投資戦略（2017年12月末AUM 1,904億円）



■ 運用資産残高

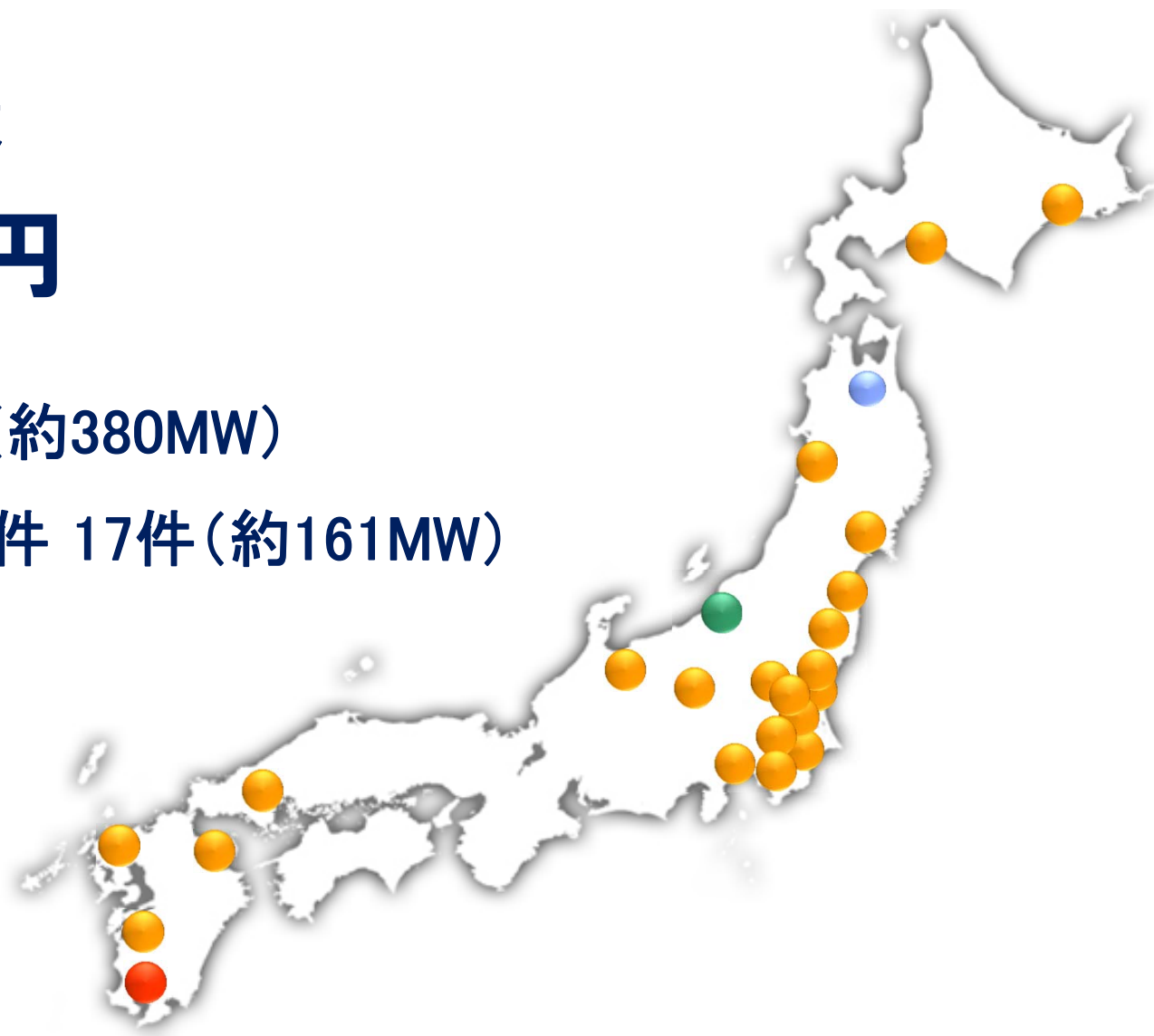
2017年12月末

1,572億円

■ 投資案件 25件(約380MW)

うち、売電開始案件 17件(約161MW)

- 太陽光発電
- 風力発電
- 地熱発電
- バイオマス発電



ブラウン・フィールド・ファンドを11月から運用開始

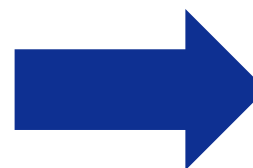
これまで提供してきた発電事業等の開発段階から運転開始までのフェーズにおける投資(グリーン・フィールド投資)に加え、運転開始後のフェーズにおける投資(ブラウン・フィールド投資)も開始。

株式・債券といったアセットクラスと低相関で、かつ長期的に安定したキャッシュフローを源泉としている点が高評価。

主な投資家様

- 太陽生命保険株式会社
- 株式会社栃木銀行
- 株式会社三井住友銀行
- 三井住友ファイナンス&リース株式会社
- リコーリース株式会社(50音順)他

初回クロージング
200億円



最終的には
500億円まで
拡大することを目指す

④未来創生投資戦略（2017年12月末AUM 367億円）



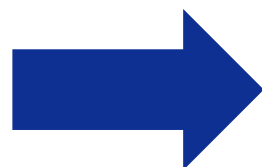
投資案件が豊富。投資実績が順調に増加。

2017年3月末AUM

365億円

2017年3月末投資案件数・実行額

26件 118億円

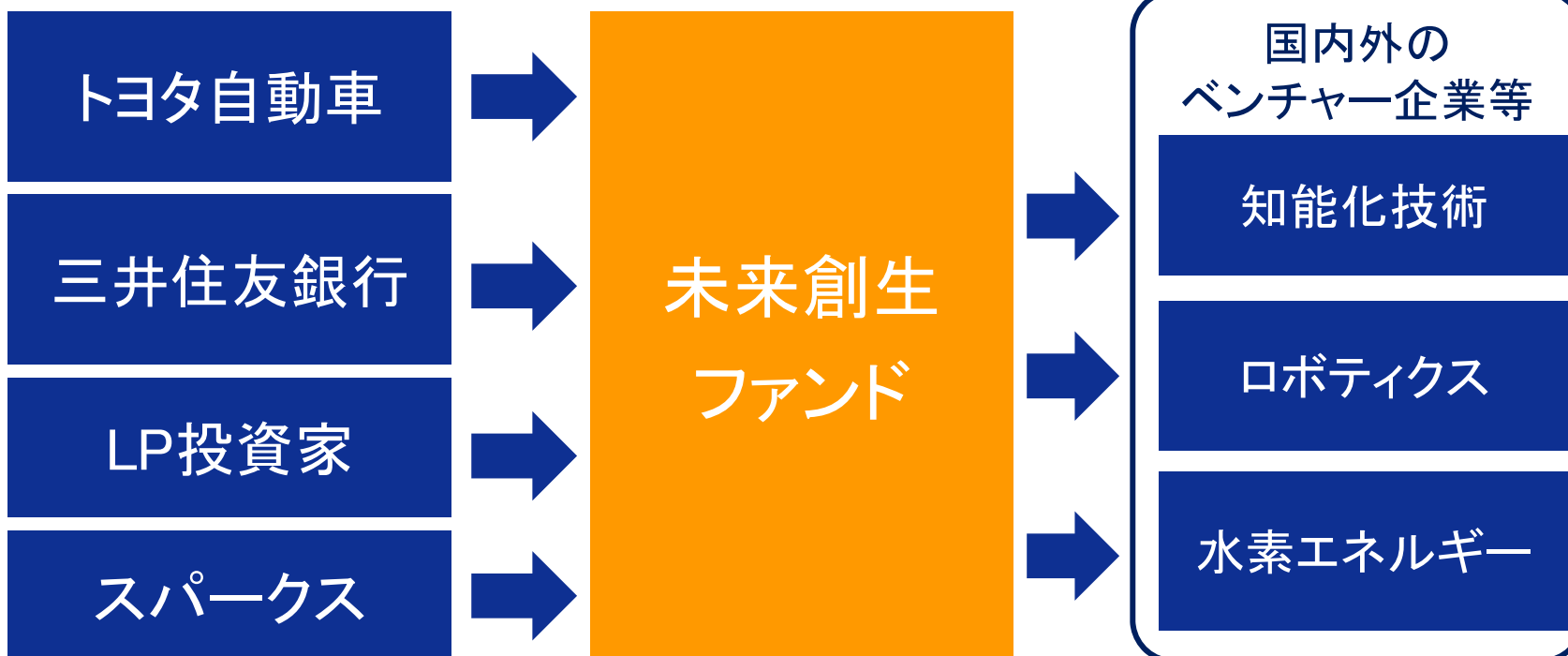


2017年12月末AUM

367億円

2017年12月末投資案件数・実行額

42件 203億円



米国駐在員事務所の開設

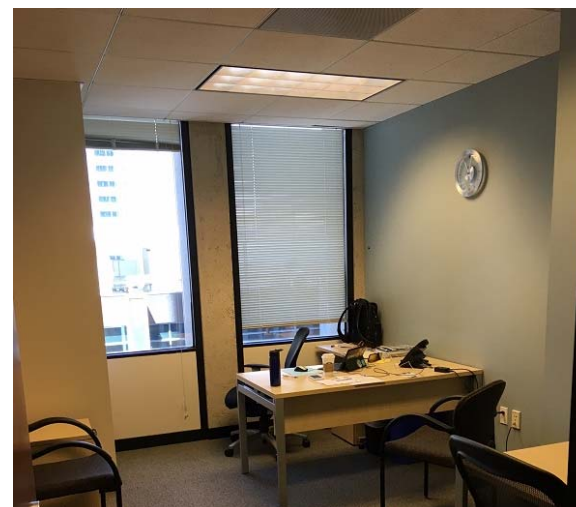
2017年10月、カリフォルニア州サンフランシスコに駐在員事務所を開設

目的

- ①未来創生ファンドの米国における投資案件の発掘業務及び売却先選定業務
- ②未来創生ファンドの米国における投資先企業との関係強化
- ③米国のベンチャービジネス業界における人的関係強化
- ④米国における新規事業推進のための情報収集



入居しているビル全景



オフィス風景

投資先の状況

株式会社 PKSHA Technology

- ・人口知能(AI)開発ベンチャーであり、機械学習技術などを利用したアルゴリズムの開発やライセンスを行っている。
- ・2017年9月22日に東証マザーズに上場

株式会社ソラコム

- ・IoT通信プラットフォーム「SORACOM」を提供するIoT領域におけるリーディングカンパニー
- ・2017年8月にKDDI株式会社が買収



今後も新規上場する投資先や大手企業に買収される投資先が出てくることを想定。

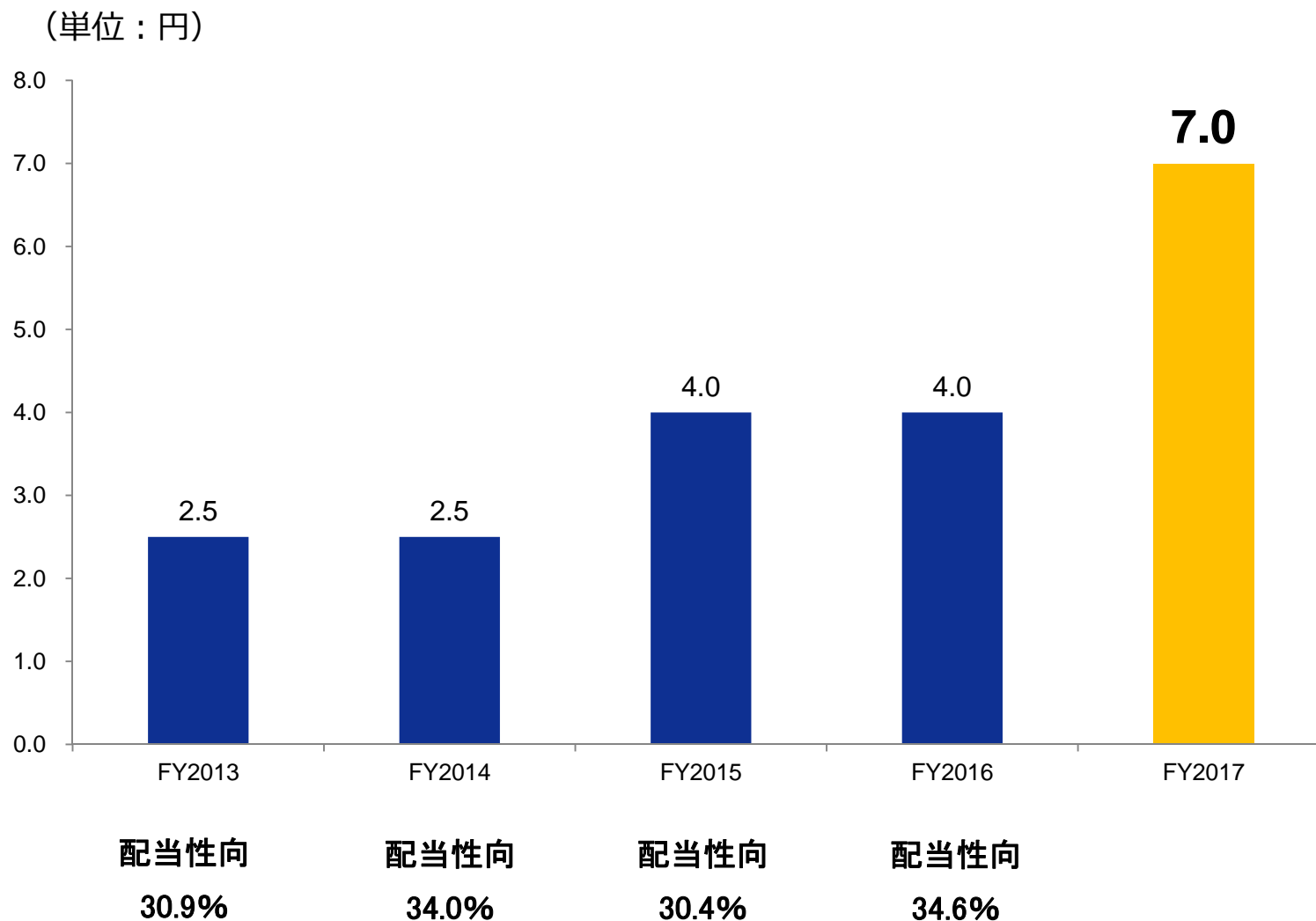
将来、LP投資家様へ分配を行った後に、成功報酬が計上できる仕組み。

⇒今期、本戦略から計上する成功報酬はない見込み。



その他

2018年3月期 1株あたり 7.0円配当に増配予定(注)



(注) 2018年6月開催予定の第29回定時株主総会の決議をもちまして正式に決定、実施する予定です。
この他、第1四半期において3.28億円の自己株式の取得を実施しております。

バフェット・クラブとは

著名投資家ウォーレン・バフェットを始め、様々な投資哲学を研究・議論することで、スパークス社員が「世界で最も信頼、尊敬されるインベストメント・カンパニー」として、顧客に経済的豊かさ、健康、幸せをもたらしたいという価値観を共有。



創業時から定期的に行われ、スパークスの投資哲学を次世代へ伝承。



スパークスの活動をより良くご理解いただけるよう、動画配信やFacebookなどによる情報発信を行っております。徐々に「いいね！」が増えております。ご覧いただきありがとうございます。

■ スパークスTV

<https://www.sparx.jp/tv/>

■ 公式Facebook

<https://www.facebook.com/SPARXGroup/>

会社概要



会社名	スパークス・グループ株式会社
代表者	代表取締役社長 阿部修平
所在地	東京都港区港南1-2-70
創業	1989年7月1日
資本金	85億81百万円 (2017年12月末現在)
グループ 従業員数	140名 (2017年12月末現在)
上場取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード市場
証券コード	8739



代表取締役社長 グループCEO 阿部 修平

- 1954年 札幌生まれ
- 1978年 上智大学経済学部卒業
- 1980年 バブソンカレッジでMBA取得。帰国後、株式会社野村総合研究所に入社。企業調査アナリストとして日本株の個別企業調査業務に従事。
- 1982年 ノムラ・セキュリティーズ・インターナショナル(ニューヨーク)に出向し、米国機関投資家向けの日本株のセールス業務に従事。
- 1985年 アベ・キャピタル・リサーチを設立(ニューヨーク)。クワンタムファンド等、欧米資金による日本株の投資運用・助言業務を行うとともに、欧米の個人資産家の資産運用を行う。
- 1989年 帰国後、スパークス投資顧問(現 スパークス・グループ株式会社)を設立、代表取締役社長に就任(現任)。
- 2005年 ハーバード大学ビジネススクールでAMP取得。
- 2011年 政府のエネルギー・環境会議 コスト等検証委員会委員就任。
- 2012年 政府の需給検証委員会委員就任。
- 2012年 国際協力銀行 リスク・アドバイザー委員会委員就任(現任)



補足資料

運用資産残高等に対して一定料率を手数料としていただくビジネス

■ 収益構造

残高報酬 = 運用資産残高 × 残高報酬料率

成功報酬 = 運用資産残高 × 成功報酬付帯比率 × 成功報酬料率

■ 重要な経営指標

- 運用資産残高 (AUM)
- 残高報酬料率
- 成功報酬付帯比率
- 基礎収益 = 残高報酬 (手数料控除後) ▲ 経常的経費

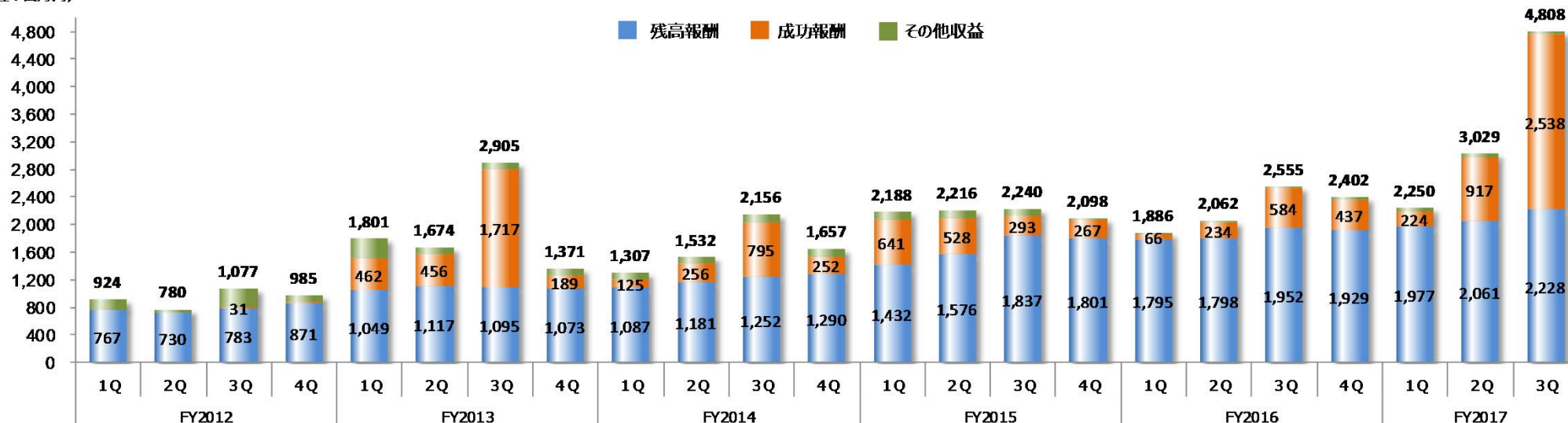
(注) 収益構造の仕組みを簡便的に説明したものであり、実際の計算方法を厳密に説明したものではありません。

営業収益の四半期推移



残高報酬料率は高水準を維持し、残高報酬は堅調に推移することに加えて今四半期は成功報酬が大幅に増加。

(単位：百万円)



(単位：百万円)	FY2012				FY2013				FY2014				FY2015				FY2016				FY2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
残高報酬	767	730	783	871	1,049	1,117	1,095	1,073	1,087	1,181	1,252	1,290	1,432	1,576	1,837	1,801	1,795	1,798	1,952	1,929	1,977	2,061	2,228
成功報酬	0	2	31	5	462	456	1,717	189	125	256	795	252	641	528	293	267	66	234	584	437	224	917	2,538
その他営業収益	156	46	261	107	288	100	92	109	94	94	109	114	114	111	109	29	24	28	18	35	48	50	41
営業収益計	924	780	1,077	985	1,801	1,674	2,905	1,371	1,307	1,532	2,156	1,657	2,188	2,216	2,240	2,098	1,886	2,062	2,555	2,402	2,250	3,029	4,808

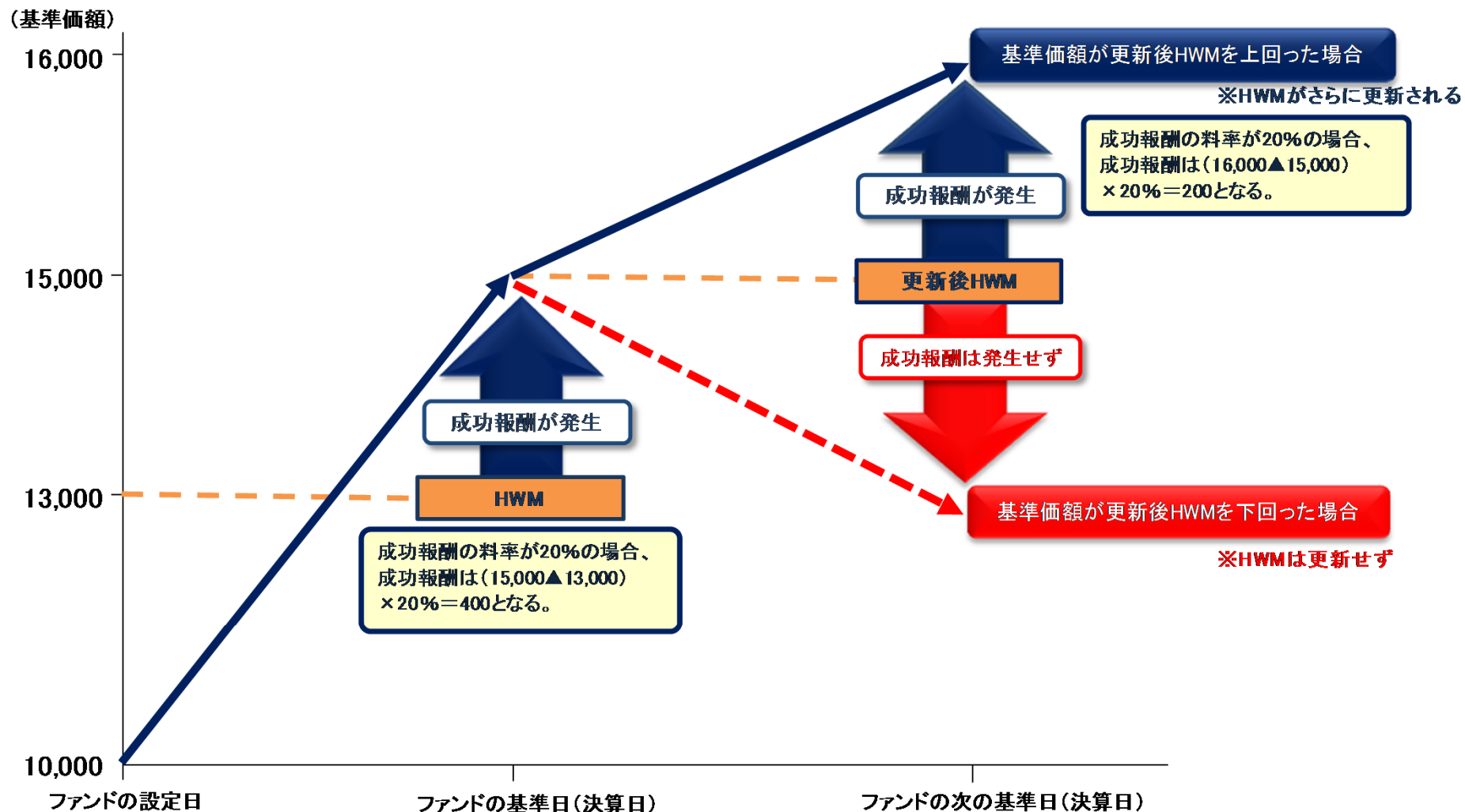
(ご参考)

運用資産残高 (億円) (3ヶ月平均)	4,799	4,643	5,369	6,232	6,774	6,752	7,117	6,874	7,239	7,859	8,217	9,126	10,297	9,277	9,856	9,497	9,233	9,270	9,703	9,631	10,018	10,627	11,773
残高報酬料率 (2ヶ月平均) (手数料控除後)	0.57%	0.55%	0.52%	0.50%	0.55%	0.58%	0.53%	0.52%	0.51%	0.52%	0.53%	0.49%	0.49%	0.59%	0.63%	0.66%	0.67%	0.67%	0.70%	0.70%	0.68%	0.68%	0.66%
成功報酬付帯比率	54.0%	51.9%	46.3%	49.1%	46.9%	49.4%	51.9%	55.1%	51.2%	50.5%	51.2%	47.6%	47.4%	37.7%	37.3%	40.1%	39.8%	41.8%	39.2%	36.4%	35.0%	34.2%	32.1%
日経平均株価 (決算日)	9,006	8,870	10,395	12,397	13,677	14,455	16,291	14,827	15,162	16,173	17,450	19,206	20,235	17,388	19,033	16,758	15,575	16,449	19,114	18,909	20,033	20,356	22,764

成功報酬の仕組み（株式運用ファンド関連）



ファンドの決算日時点で基準価額がHWMを超える部分に対して発生

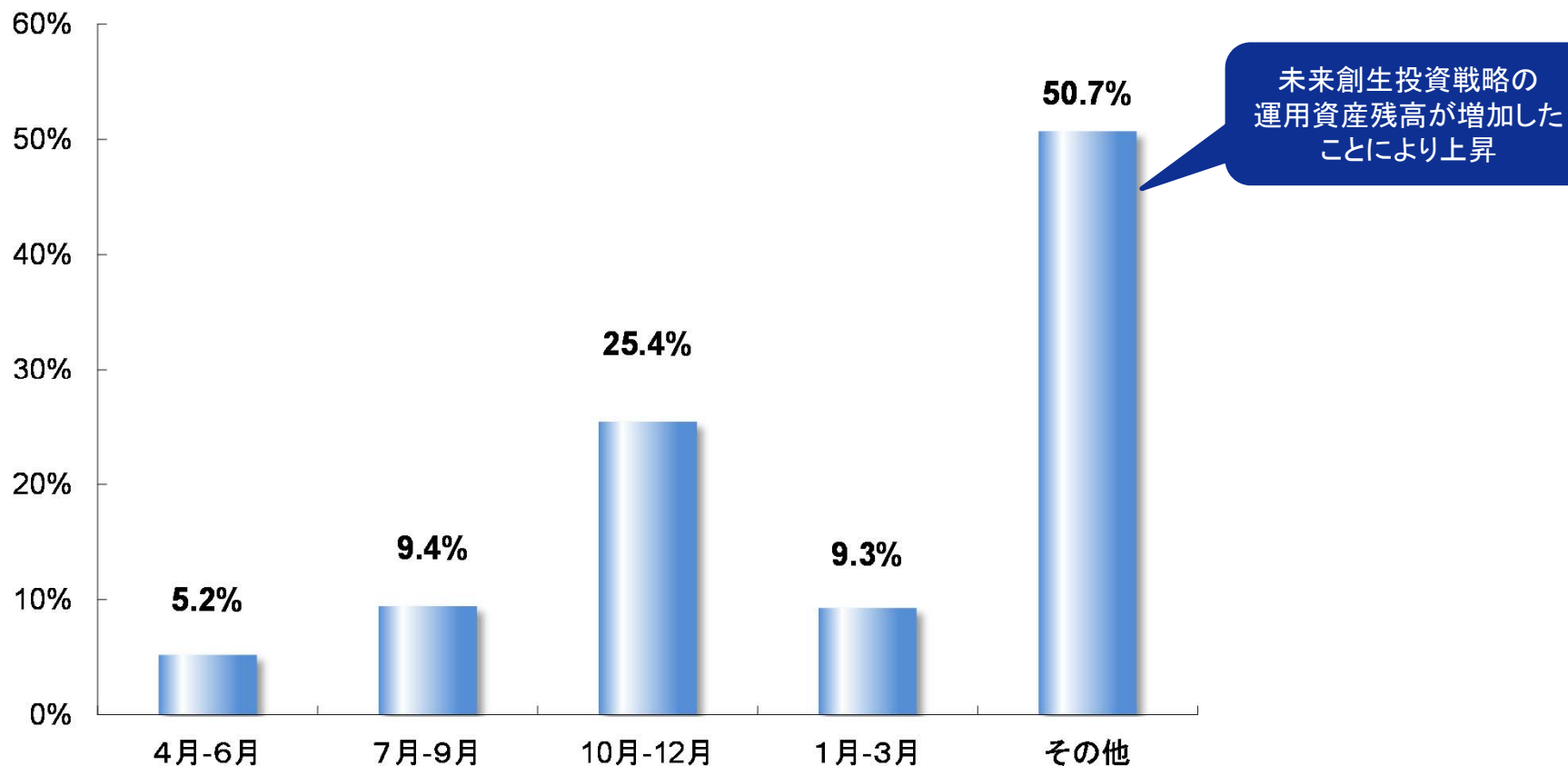


(注1) 上記の図は、成功報酬の仕組みを簡便的に説明したものであり、実際の成功報酬の体系及びファンドの基準価額の計算方法を厳密に説明したものではありません。
 (注2) 上記では、成功報酬料率を便宜的に20% (税別) として計算しています。また、上記の「HWM」は、ハイ・ウォーターマークの略。
 (注3) ファンドの基準日において成功報酬が発生した場合、「HWM」は更新されます。

(SAM社) 成功報酬付ファンドー計算基準日分布状況



今後も成功報酬の計上基準日(決算日)の分散化に努める



(注1) SAM社が運用するファンド(「ファンド」とは、投資信託あるいは投資一任口座を指す。以下同様)のうち成功報酬が付帯している残高(2017年9月末)を、成功報酬の基準日および支払いが確定する月ごとに分類し、その割合をグラフ化したもの。このうち、各計算基準日において各契約に定める要件を満たした場合のみ、成功報酬を頂くことができるものであって、今後発生する成功報酬を明示するものではありません。

(注2) 1年を通じて複数の支払時期があるファンドについては、該当ファンドの残高を各支払月に分割計上し、支払時期が定期的に発生しないファンドについては、「その他」に含めて上記割合を算出している。

(注3) 上記には、日本再生可能エネルギー投資戦略に関連する発電所等から、資金調達のため受ける一時的な報酬(アキュイジションフィー)を発生させる運用資産残高は含んでおりません。

(注4) 上記の%は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。また上記の数字は、社内データによる概算値である。

(注5) SAM社は、当社子会社スパークス・アセット・マネジメント社の略称。以下、本資料中同様。

営業費用及び一般管理費の内訳



- ① 好調な業績に伴って賞与引当金繰入額が増加
- ② 営業収益の増加に伴い支払手数料が増加

(単位：百万円)	2017年3月期		2018年3月期	
	第3四半期	(参考) 通期	第3四半期	前年同期比
支払手数料	766	1,020	823	+7.5%
人件費	1,712	2,347	2,323	+35.7%
旅費交通費	173	225	169	▲2.5%
不動産賃借料	295	357	241	▲18.1%
事務・業務委託費	534	731	640	+19.9%
減価償却費	70	105	111	+58.9%
広告宣伝費	123	182	109	▲11.4%
調査費	156	210	161	+3.3%
その他	391	555	480	+23.0%
営業費用・一般管理費 計	4,223	5,737	5,062	+19.9%
うち経常的経費	2,989	4,028	3,129	+4.7%

(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 上記表中の「人件費」には、給与の他、法定福利費、賞与、派遣社員等に関する費用も含んでいる。

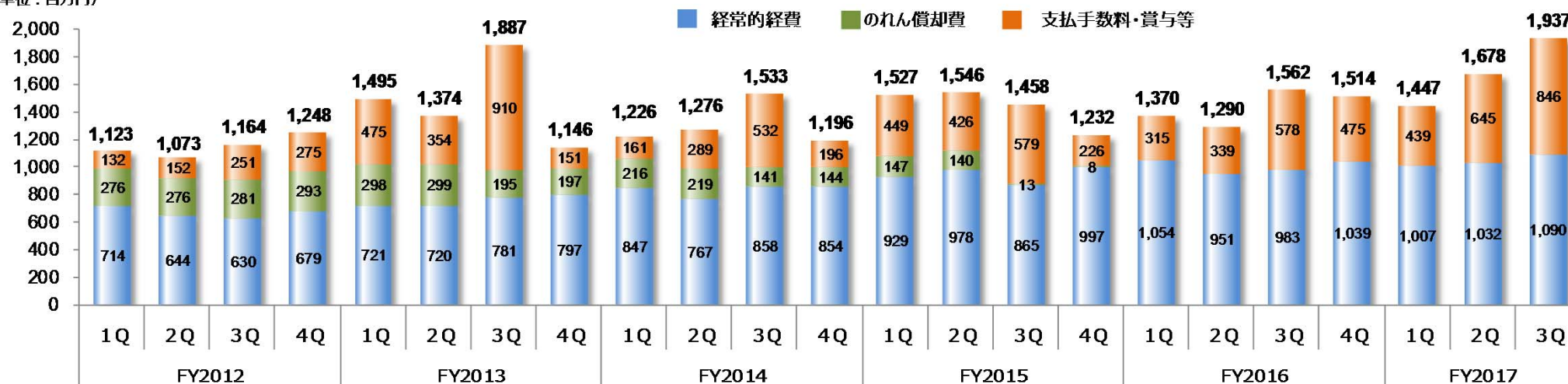
(注3) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与等(賞与引当金繰入、賞与に係る法定福利費及びESOP費用を含む)、③役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。以下本資料中同様。

営業費用及び一般管理費の四半期推移



ビジネスが拡大するなか、引き続き慎重にコストコントロール

(単位：百万円)

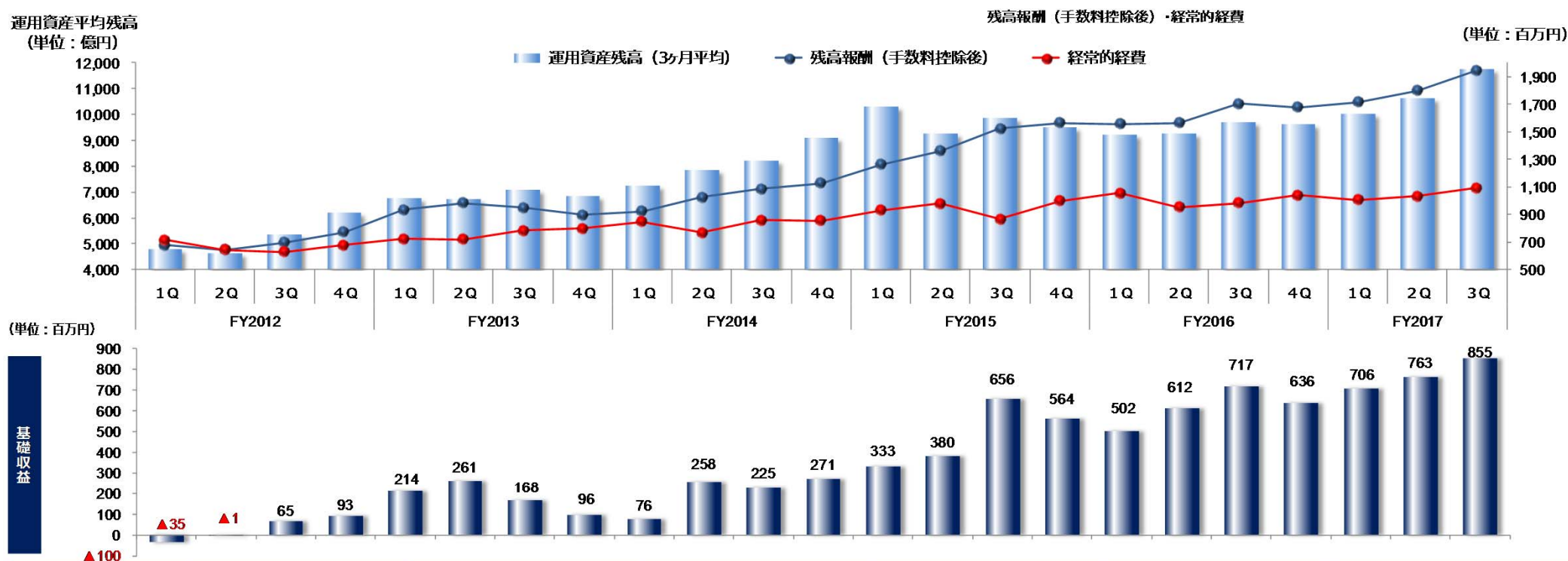


(単位：百万円)	FY2012				FY2013				FY2014				FY2015				FY2016				FY2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
経常的経費	714	644	630	679	721	720	781	797	847	767	858	854	929	978	865	997	1,054	951	983	1,039	1,007	1,032	1,090
のれん償却費	276	276	281	293	298	299	195	197	216	219	141	144	147	140	13	8	-	-	-	-	-	-	-
支払手数料・賞与等	132	152	251	275	475	354	910	151	161	289	532	196	449	426	579	226	315	339	578	475	439	645	846
営業費用・一般管理費計	1,123	1,073	1,164	1,248	1,495	1,374	1,887	1,146	1,226	1,276	1,533	1,196	1,527	1,546	1,458	1,232	1,370	1,290	1,562	1,514	1,447	1,678	1,937

基礎収益の四半期推移



残高報酬の増加及びコストコントロールにより基礎収益は堅調に推移



(単位: 百万円)	FY2012				FY2013				FY2014				FY2015				FY2016				FY2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
運用資産残高 (3ヶ月平均)	4,799	4,643	5,369	6,232	6,774	6,752	7,117	6,874	7,239	7,859	8,217	9,126	10,297	9,277	9,856	9,497	9,233	9,270	9,703	9,631	10,018	10,627	11,773
残高報酬 (手数料控除後)	679	642	695	771	934	982	950	894	923	1,025	1,084	1,126	1,262	1,358	1,521	1,562	1,557	1,563	1,701	1,675	1,713	1,795	1,945
経常的経費	714	644	630	679	721	720	781	797	847	767	858	854	929	978	865	997	1,054	951	983	1,039	1,007	1,032	1,090
基礎収益	▲35	▲1	65	93	214	261	168	96	76	258	225	271	333	380	656	564	502	612	717	636	706	763	855

(注) 「残高報酬(手数料控除後)」は概算値として、運用資産平均残高に残高報酬料率を乗じて算出している。

連結貸借対照表(1)



(単位:百万円)

今後の事業拡大など、
機動的に手元資金を有効
活用する予定

ほとんどが当社グループが
運用するファンドへのシー
ドマネー



自己資本比率
65.7%

連結貸借対照表(2)



(単位:百万円)	2017年3月	2017年12月	前期末比
流動資産	17,767	21,148	+3,381
うち、現預金	14,459	15,245	+785
うち、未収入金等	1,955	4,699	+2,743
固定資産	5,774	7,460	+1,686
うち、投資有価証券	4,415	6,159	+1,743
(資産の部 合計)	23,541	28,609	+5,068
うち、長期借入金	5,000	5,000	-
うち、未払金等	1,214	1,846	+632
(負債の部 合計)	6,358	8,206	+1,848
資本金	8,581	8,581	-
資本剰余金	4,111	3,285	▲825
利益剰余金	5,503	8,355	+2,852
自己株式	▲3,701	▲3,204	+497
株主資本	14,494	17,019	+2,524
その他有価証券評価差額金	▲29	347	+377
為替換算調整勘定	1,220	1,427	+207
非支配株主持分	1,479	1,590	+110
(純資産の部 合計)	17,183	20,403	+3,220

主に成功報酬にかかる未収投資顧問料の増加

主にOne Asia投資戦略に係るシード投資

自己株式処分 ▲825百万円

配当金の支払い ▲810百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益 +3,663百万円

自社株買い ▲328百万円、
自己株式処分 +825百万円

(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

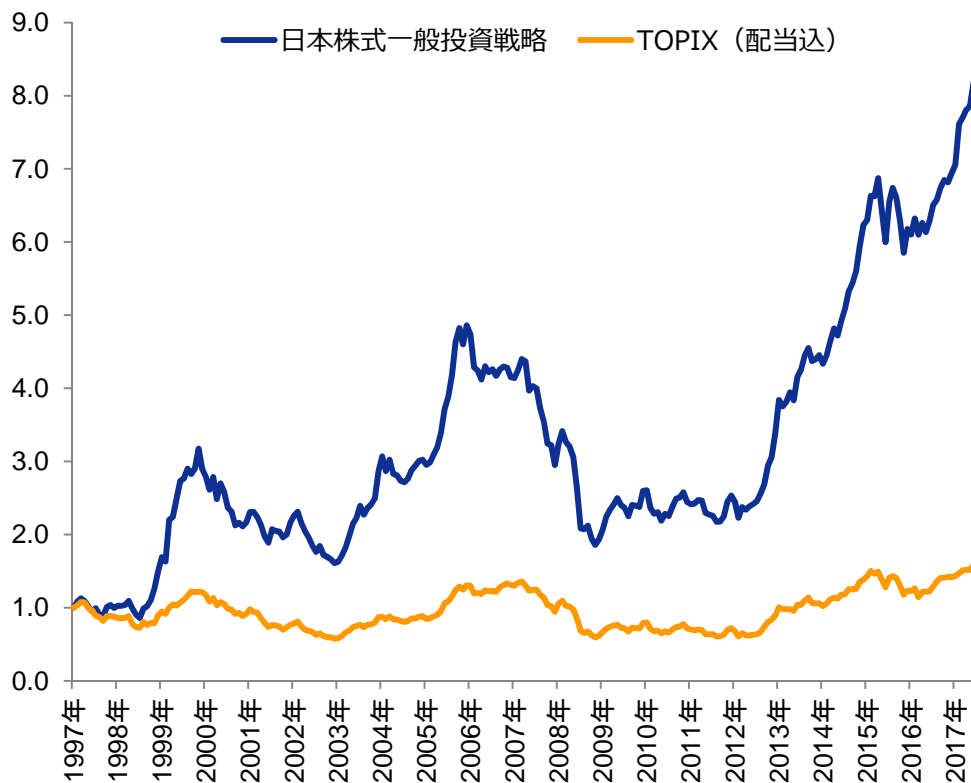
(注2) 投資有価証券は、当社グループが運用するファンドへのシードマネーを含む。

主要投資戦略 計測開始日 来コンポジットリターン①



※この頁の投資戦略分類はP.15のIR上での分類と完全には一致していませんことをご了承ください。

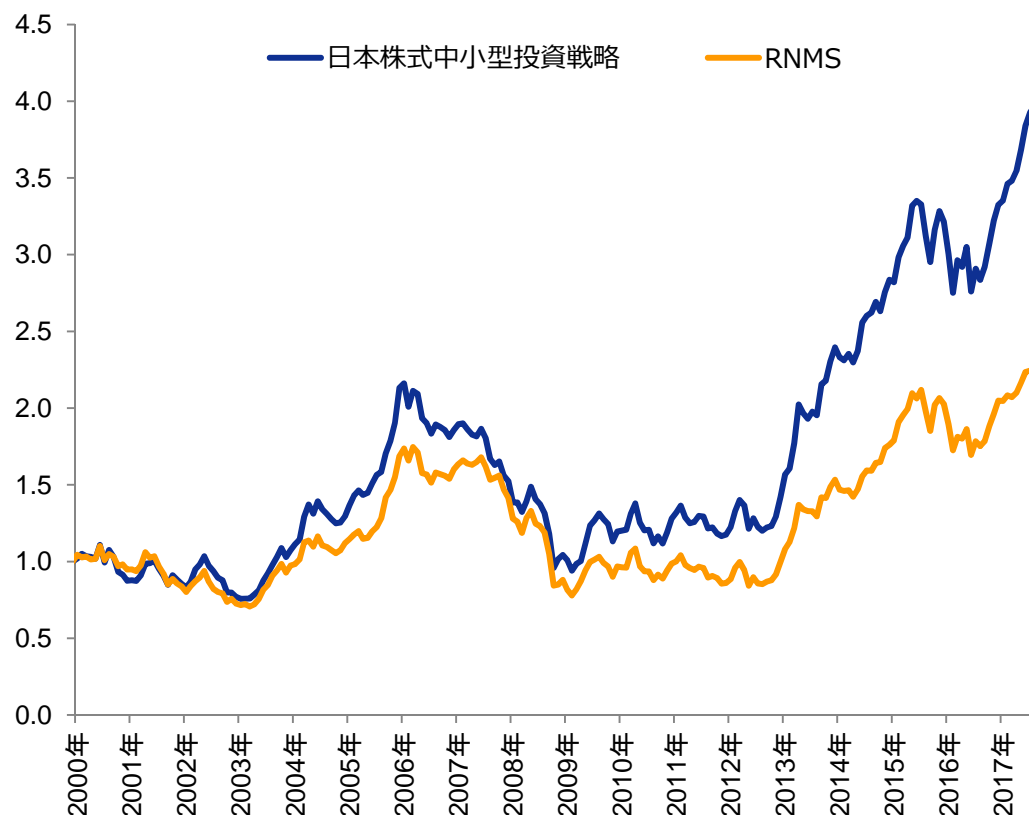
日本株式一般投資戦略



(年率換算リターン)

日本株式一般投資戦略	11.25%	参考インデックス	TOPIX (配当込)
参考インデックス	2.66%	計測期間	1997年5月 ～2017年12月
超過リターン	8.58%	コンポジット・リターンのポラティリティ(年率)	20.76%

日本株式中小型投資戦略



(年率換算リターン)

日本株式中小型投資戦略	9.00%	参考インデックス	ラッセル野村日本株 スタイルインデックス・ミッド・ アンド・スモール
参考インデックス	5.38%	計測期間	2000年1月 ～2017年12月
超過リターン	3.62%	コンポジット・リターンのポラティリティ(年率)	17.76%

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

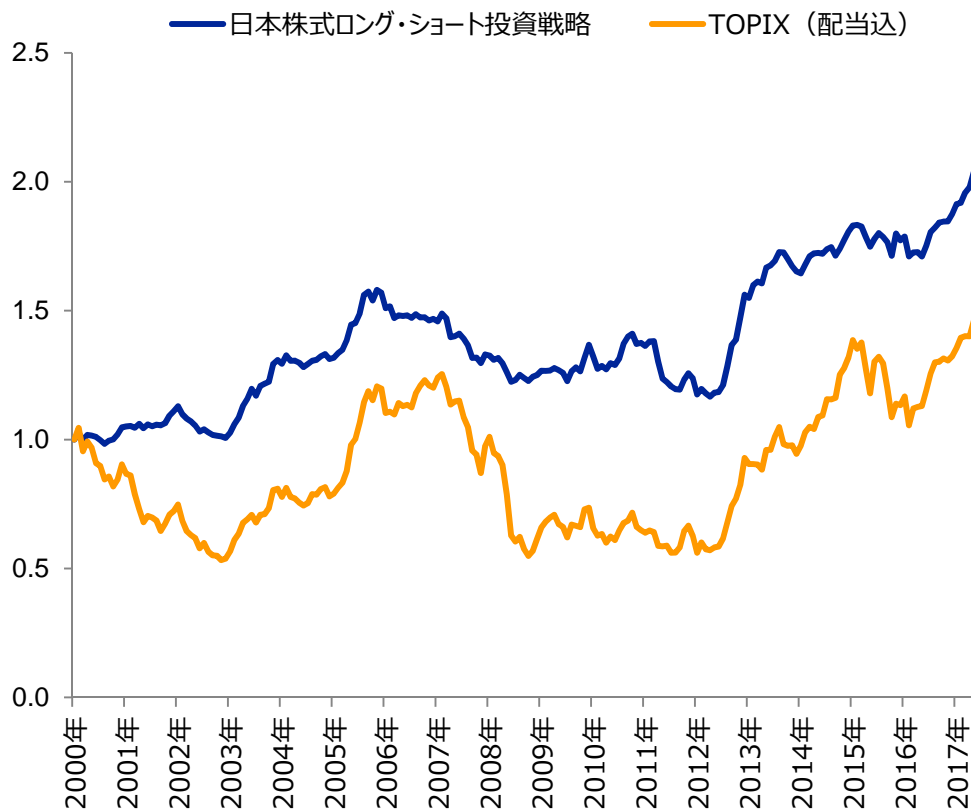
出所: スパークス・グループ(2017年12月末時点)

主要投資戦略 計測開始日來コンポジットリターン②



※この頁の投資戦略分類はP.15のIR上での分類と完全には一致しておりませんことをご了承ください。

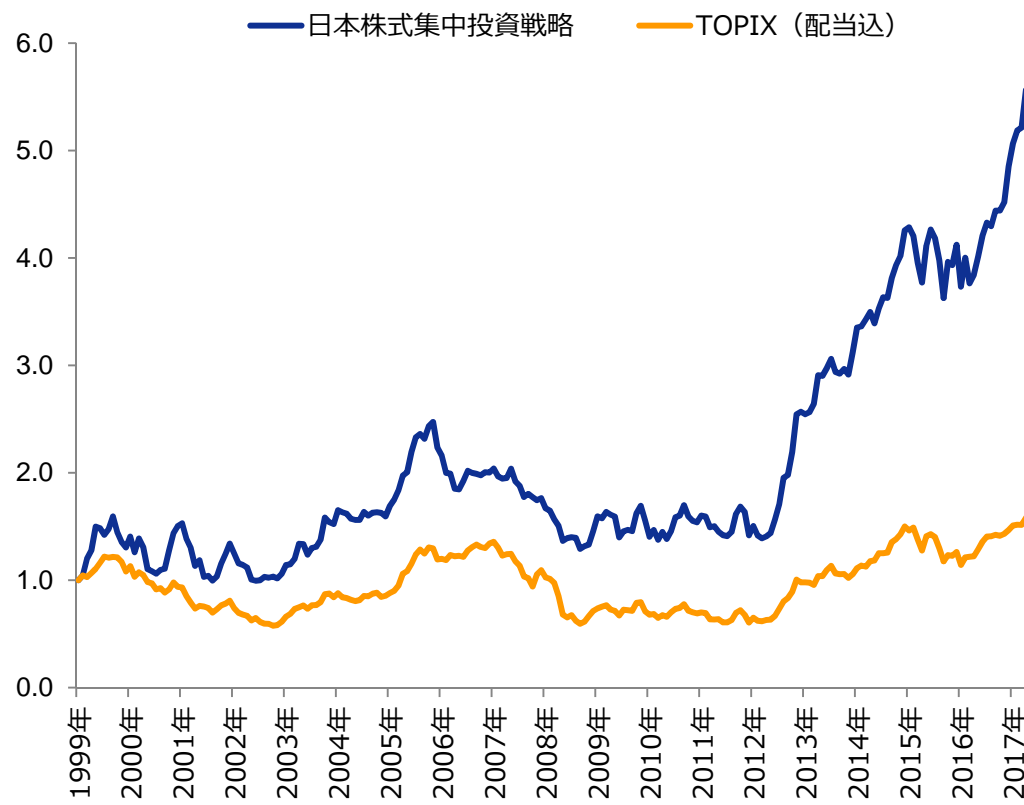
日本株式ロング・ショート投資戦略



(年率換算リターン)

日本株式 ロング・ショート戦略	4.52%	参考インデックス	TOPIX(配当込)
参考インデックス	2.67%	計測期間	2000年6月 ～2017年12月
超過リターン	1.85%	コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	7.31%

日本株式集中投資戦略



(年率換算リターン)

日本株式 集中投資戦略	10.72%	参考インデックス	TOPIX(配当込)
参考インデックス	2.97%	計測期間	1999年7月 ～2017年12月
超過リターン	7.74%	コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	20.23%

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

出所:スパークス・グループ(2017年12月末時点)

未来創生ファンド 投資先企業等(2017年12月末時点)



<一部抜粋>

分野	会社名	特徴
知能化技術	Xevo Inc. (旧UIEvolution Inc.)	自動車、ホテル、豪華客船内等で簡単に、スムーズに接続可能なUX(ユーザーエクスペリエンス)ミドルウェアを開発
知能化技術	Getaround	カーシェアリング・ベンチャー「自動車版エアビーアンドビー」トヨタの「コネクテッドカー」事業で戦略的関係構築
知能化技術	freee(株)	AIを活用したクラウド型会計ソフトでNo.1プレイヤー
知能化技術	(株)FiNC	遺伝子検査、健康診断、生活習慣といった様々な角度からのパーソナルデータを包括的に分析し、ヘルスケアの専門家や人工知能(AI)が最適な生活習慣改善の提案をするテクノロジー企業。
知能化技術	(株)アプトボッド	自動運転に応用可能な双方向通信クラウドシステム提供
知能化技術	Guardian Optical Technologies Ltd.	センサー技術力向上の研究開発を加速し、車内カメラによる搭乗者のデータ収集能力を高め事故抑制の安全技術確立を目指す
知能化技術	Autotalks Ltd.	チップの大量生産の準備を進めると共にコネクテッドカーと自動運転車のための通信ソリューション開発をさらに強化
知能化技術	Japan Taxi(株)	「全国タクシー」アプリに「事前確定運賃」や「タクシー相乗り」などの革新的な新機能を追加し、配車可能タクシーで現在約22%の市場シェアを、2022年までに約60%とし、「国民的タクシーアプリ」にすることを旨とする
知能化技術	SanSan(株)	名刺を起点とした国内最大のビジネスネットワーク「Eight」の国内外での普及を加速し、アジアNo.1のビジネスプラットフォームとなることを旨とする
知能化技術	Fly Data Inc.	データ統合ソリューションに加え、産業用IoTやAI分野のソリューション提供を通じて、データ活用のトータル・ソリューションプロバイダーを目指す
ロボティクス	GROOVE X (株)	ヒト型ロボット「Pepper」の開発で培った経験を活かし、家庭用ロボットのGlobal Standardを目指す
ロボティクス	Kymeta Corporation	世界中で大容量・双方向のConnected Mobilityを実現する衛星アンテナ・テクノロジー
ロボティクス	(株)三次元メディア	ロボットに「目」と「脳」の機能を提供し、産業用ロボットの知能化に貢献する。
ロボティクス	WHILL Inc.	ハードウェアとソフトウェアを融合させたハイエンド電動車椅子『WHILL』を開発・製造・販売
ロボティクス	(株)MJI	人間の暮らしに活力や憩いをもたらすコミュニケーション型ロボット「タビア」を開発
ロボティクス	マゼランシステムズジャパン(株)	日本版GPS のサービス開始視野に自動運転基盤技術を開発
ロボティクス	(株)エクスピジョン	高速画像処理プラットフォームを中心とした研究開発の推進と、販売・マーケティング活動を強化し、同プラットフォーム技術の確立と世界の様々な産業分野で同社システム採用を目指す
ロボティクス	(株)アールティ	ディープラーニングを活用し、食品工場での食品など不定形物のピッキングを可能とする次世代型多関節ロボットの試作機の開発や人材採用で経営基盤強化を図る
ロボティクス	Realtime Robotics Inc.,	超高速、低消費電力、低価格で最適なルート計算を可能にするプロセッサの開発を加速し、大手グローバル企業との提携により、産業用ロボットおよび自動車の自動運転技術への応用による成長の加速を目指す
ロボティクス	(株)QPS研究所	小型SAR衛星を多数打ち上げることで、「いつでもすぐに地球観測ができる」先進的な社会インフラ構築を目指す
ロボティクス	Intuition Robotics, Inc.	ロボット研究者、工業デザイナー、フルスタックデベロッパー、Androidデベロッパー、老年学者、機械学習専門家など、同社の多分野にわたる専門家チームが、積極的に話しかける高齢者ケア用コンパニオンロボット「ELLIQ」の開発に現在取り組んでいる。
ロボティクス	株式会社メルティンMMI	独自に開発した生体信号処理技術、ロボット機構制御技術を通して、手指の細かい動きの再現に成功。開発した技術は、医療介護分野を初めてとして、様々な分野で活用されることが期待
水素エネルギー	エクセルギー・パワー・システムズ(株)	ハイブリッド水素電池、燃料電池領域で独自の技術を有する。

QUALITY

It's SPARX

ファンド運用力にこそ、クオリティを。

この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および当社に関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のものです)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれら依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。

この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。この資料に記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(「スパークス」)は、グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS®)に準拠して本資料の関係部分を作成し提示しています。スパークスは、1997年4月1日以降2014年12月31日までの期間について独立した検証者による検証を受けています。検証は、(1)会社がコンポジット構築に関するGIPS基準に準拠しているかどうか、および(2)会社の方針と手続きが、GIPS基準に準拠してパフォーマンスを計算し、提示するよう設計されているかどうかについて評価するものです。検証は、特定のコンポジット提示資料の正確性を確かめるものではありません。準拠主体である会社はスパークス・アセット・マネジメント株式会社です。スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、日本において投資運用業、投資助言・代理業、第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。従前会社の定義に含まれていた会社のうち、SPARX Investment & Research, USA Inc. (SIR)は解散により2009年10月15日付で会社定義から除外、SPARX International (Hong Kong) Ltd. (SIHK)は譲渡に伴い2010年11月30日付で会社定義から除外、ファンド運営管理会社であるSPARX Overseas Ltd. (SOL)はスパークス・アセット・マネジメント株式会社以外が運用するファンドの運営管理を行う可能性により2013年12月31日付で会社定義から除外していますが、会社定義は準拠表明開始以来、一貫してスパークス・アセット・マネジメント社の一任運用する資産を対象としています。

コンポジットの詳細

会社の全コンポジットの一覧表とその内容の詳細についてはご要望に応じ、随時提出が可能です。

問い合わせ先:スパークス・アセット・マネジメント株式会社 マーケティング本部 (TEL 03-6711-9200)

RUSSELL/NOMURAデータに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券および Russell Investments に帰属します。

なお、この資料には、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の運用する投資信託に関する記述がありますが、以下の点ご注意ください。

投資信託の留意点

以下の記載は、金融商品取引法第37条により表示が義務付けられている事項です。お客様が実際にご購入される個々の投資信託に適用される費用やリスクとは内容が異なる場合がありますのでご注意ください。ファンドにかかる費用の項目や料率等は販売会社や個々の投資信託によって異なるため、費用の料率はスパークス・アセット・マネジメント株式会社が運用する投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高料率を表示しております。また、特定の投資信託の取得をご希望の場合には、当該投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので、必ずご覧いただき、投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断で行っていただくようお願いいたします。

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等(外貨建て資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。

特化型のファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。

投資信託(公募投信)に係る費用について

当社における投資信託(公募投信)に係る費用(料率)の上限は以下の通りです。

●直接ご負担いただく費用

購入時手数料: 上限 3.78%(税込)

換金手数料: なし

信託財産留保額: 上限 0.5%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬: 上限 年2.052%(税込)

実績報酬(※): 投資信託により、実績報酬がかかる場合があります。

※ 実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額を示すことができません。

その他の費用・手数料: 監査費用、目論見書や運用報告書等の作成費用など諸費用等ならびに組入有価証券(ファンドを含む)の売買の際に発生する売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建て資産の保管費用等を信託財産でご負担いただきます。組入有価証券がファンドの場合には、上記の他に受託会社報酬、保管会社報酬などの費用がかかる場合があります。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

投資信託により異なりますので、詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。

<委託会社>

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局(金商)第346号

加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■当資料は決算説明を目的として、スパークス・グループ株式会社及びスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料は、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。このため、当資料の第三者への提示・配布や当資料を用いた勧誘行為は禁止いたします。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。

スパークス・グループ株式会社
郵便番号108-0075
東京都港区港南1-2-70品川シーズンテラス6階
Tel: 03-6711-9100(代)